座標平面上に、原点 O を中心とする半径 5 の円 C、点 A(0,7)、点 B(1,6) が与えられている。点 $P(\alpha,\beta)$ を中心とし、2 点 A、B を通る円を C(P) として、以下の問に答えよ。

- (1) α , β の満たすべき条件を求めよ.
- (2) 2 円 C, C(P) が共有点をもつための条件を α のみを用いて表せ.

(13 防衛医大 2)

 $\alpha \le 0$ または $120 \le \alpha$ 解答は次のページにあります.

【チェック・チェック】

2円の位置関係は「中心間の距離」と「半径の和,差」の大小関係からおさえることができます。あとは計算力の勝負です。

計算が大変だと思ったなら一工夫してみましょう.

【解答】

(1) 点 $P(\alpha, \beta)$ を中心とする円 C(P) の半径を r とすると、C(P) の方程式は

$$(x - \alpha)^2 + (y - \beta)^2 = r^2$$

である. C(P) は 2 点 A(0, 7), B(1, 6) を通るから

$$\alpha^2 + (7 - \beta)^2 = r^2$$

$$(1-\alpha)^2 + (6-\beta)^2 = r^2$$
 ②

を満たす。①、②の辺々をひくと

 $\alpha - \beta + 6 = 0$

$$(2\alpha - 1) + (-2\beta + 13) = 0$$

(2) 2 円が共有点をもつ条件は

(半径の差)≤(中心間の距離)≤(半径の和) ……(*)

である. (1) より C(P) の中心は $(\alpha, \alpha+6)$, 半径 r は①より

$$r^2 = \alpha^2 + \{7 - (\alpha + 6)\}^2 = 2\alpha^2 - 2\alpha + 1$$

を満たす. 円 C は中心 O(0, 0), 半径 5 の円であるから

$$(*) \iff |\sqrt{2\alpha^2 - 2\alpha + 1} - 5|$$

$$\leqq \sqrt{\alpha^2 + (\alpha + 6)^2} \leqq \sqrt{2\alpha^2 - 2\alpha + 1} + 5$$

$$\iff (\sqrt{2\alpha^2 - 2\alpha + 1} - 5)^2$$

$$\leqq 2\alpha^2 + 12\alpha + 36 \leqq (\sqrt{2\alpha^2 - 2\alpha + 1} + 5)^2$$

$$\iff 2\alpha^2 - 2\alpha + 26 - 10\sqrt{2\alpha^2 - 2\alpha + 1}$$

$$\leq 2\alpha^2 + 12\alpha + 36$$

 $\leq 2\alpha^2 - 2\alpha + 26 + 10\sqrt{2\alpha^2 - 2\alpha + 1}$

$$\iff$$
 $-5\sqrt{2\alpha^2 - 2\alpha + 1}$

$$\leq 7\alpha + 5 \leq 5\sqrt{2\alpha^2 - 2\alpha + 1}$$

$$\iff |7\alpha + 5| \le 5\sqrt{2\alpha^2 - 2\alpha + 1}$$

$$\iff 49\alpha^2 + 70\alpha + 25 \leqq 25(2\alpha^2 - 2\alpha + 1)$$

$$\iff \alpha^2 - 120\alpha \ge 0$$

よって、求める条件は

$$lpha \le 0$$
 または $120 \le lpha$

• 2円の方程式は

$$C: x^2 + y^2 = 5^2$$
 (3)

$$C(P): (x - \alpha)^2 + (y - \alpha - 6)^2 = 2\alpha^2 - 2\alpha + 1$$
 (4)

①かつ②すなわち,AP = BP を満たすPはABの垂直二等分線上の点である.

← 2 円の位置関係

← ここから先は同値性 に注意をはらって計 算する. である. ③, ④の辺々をひくと

$$2\alpha x + 2(\alpha + 6)y - \alpha^2 - (\alpha + 6)^2 = -2\alpha^2 + 2\alpha + 24$$

$$\therefore \quad \alpha x + (\alpha + 6)y - 7\alpha - 30 = 0 \qquad \cdots \qquad \S$$

{③, ④} ⇔ {③, ⑤} より

③, ④ が共有点をもつ

⇔ ③, ⑤ が共有点をもつ

⇔ (③の中心と直線⑤との距離) ≦ (③の半径)

$$\iff \frac{|-7\alpha - 30|}{\sqrt{\alpha^2 + (\alpha + 6)^2}} \le 5$$

$$\iff (7\alpha + 30)^2 \le 25(2\alpha^2 + 12\alpha + 36)$$

$$\iff \alpha^2 - 120\alpha \ge 0$$

$$\alpha \leq 0$$
 または $120 \leq \alpha$

← 加減法の原理

← 2円の位置関係を 円と直線の位置関係 に言い換えた. これにより計算がか なり楽になった.